

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 110

江戸川区立大杉小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年		第6学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	年度	国語	算数	年度	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標			令和12年度の目標			令和12年度の目標		
令和11年度の目標				令和11年度の目標			令和11年度の目標			令和11年度の目標		
令和10年度の目標				令和10年度の目標			令和10年度の目標			令和10年度の目標		
令和9年度の目標				令和9年度の目標			令和9年度の目標			令和9年度の目標		
令和8年度の目標	-5	-10	-15	令和8年度の目標	-10	-5	令和8年度の目標	-8	-5	令和8年度の目標	-7	-5
令和7年度の結果	-8	-17	-25	令和7年度の結果	-13.3	-8.5	令和7年度の結果	-10.6	-8.9	令和7年度の結果	-7.8	-6.7
令和6年度の結果	-8	-7	-15	令和6年度の結果	-20.7	-16.5	令和6年度の結果	-8.7	-8.0	令和6年度の結果	-7.0	-5.6
令和5年度の結果	-17	-18	-35	令和5年度の結果			令和5年度の結果			令和5年度の結果		

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度 目標		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容						
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科の授業研究に取り組み、目標に応じて必要な情報を見付けることができるようになった。 ○算数科を強化するために「ぐんぐんタイム」を導入し、計算力を高めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では「書くこと」が、算数科では「図形」「変化と関係」の得点率が低かった。 		<p>○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践し、各教科でめぐる、まとめ(振り返り)を毎時間確実に行う。</p> <p>○算数科では、習熟度に応じた授業を展開する。A・B層は応用力を高め、C・D層は基礎・基本の定着を図る。</p> <p>○国語科では、語彙を増やし、「読む力」「書く力」を高める。</p>		<p>○校内研究をおとした授業改善や、自己申告で国語・算数の授業を行い、管理職から助言をもらう。</p> <p>○算数の東京BD診断テストを年間4回実施し、既習内容の定着を確認する。東京BDの結果を生かした年間15分×35回の朝学習の実施する。</p> <p>○2～6年生を対象に、校内九九検定を実施する。1年生はたし算とひき算、時計検定を実施する。</p> <p>○校内漢字検定と音読検定を行うことで、語彙力を高める。</p> <p>○週2回程度「ぐんぐんタイム」を実施し、C・D層の学力を高める。</p>	
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひらがな、カタカナ、漢字検定を行った。ひらがなやカタカナ検定では、児童2名以外は100点満点。漢字は80点以上は9割だった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字テストで合格できなかった児童が1割いる。 ○計算テストで合格できなかった児童が2割いる。 		<p>○国語科の学習は、音読や読書をする時間を増やし、語彙力や文章を読み取る力を育てる。</p> <p>○月に一度のMIMテストに向けて、特殊音節の問題に取り組み、読める言葉を増やす。</p> <p>○算数科の学習は、たし算やひき算の確実な習得をする。</p>		<p>○国語科の学習は、授業の中で必ず音読をする時間を設け、家庭学習にも取り入れる。読書は、朝読書や読書の時間なども利用し、図鑑や絵本など幅広い分野で読書をする機会をつくる。</p> <p>○算数科の学習は、計算カードなどを使い繰り返し練習し、繰り下がりがひき算を反復練習する。</p>	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学年下の漢字、ひらがな、カタカナ検定を行い、児童ができない問題を知り、復習する力が身についた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科の「九九テスト」では、100秒以内に九九を唱えることができない児童が1割程度いる。 ○自分の考えを回や言葉を用いて書くことができない児童が3割程度いる。 ○当該学年の漢字の習得度が低く、学年末の漢字テスト80点満点不合格者が3割程度いる。 		<p>○国語科の授業では、新しい言葉の説明や動作化をしたり、家庭では言葉集めのワークシートを活用したりし、語彙を増やす。</p> <p>○月に一度のMIMテストに向けて、金曜日の朝学習では、特殊音節の問題に取り組み、読める言葉を増やす。</p> <p>○全児童が、九九を100秒で唱えられるようにする。</p> <p>○算数科では、自分の考えを簡単な図や言葉を使って、表現できるようにする。</p>		<p>○週1回の家庭学習に日記を書くことを組み込んだり、各教科でお世話になった方々に手紙を書くこと計画的に行ったりすることで、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○九九の定着に向けて、家庭と連携したカードを作成し、保護者の協力しながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○九九検定を行い、学校長が認定書を発行する。</p> <p>○算数科では、簡単な回や式を用いて自分の考えを表す時間、お互いの考えを伝えあう時間を確保する。</p>	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年として繰り返し50問テストに取り組み続け、9割程度の児童は8割ほど点数をとることができるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語算数共にCD層で6割を超えている事。テストの形式に慣れていないこともあるが、たくさん問題を解くことに慣れていない児童も多い。 ○国語は、知識技能(言葉・情報・言語文化)の点数が全国と比べて-16.9ポイントで、日本語についての基礎知識の定着ができていないことがわかる。 		<p>○国語科の学習では、新しく学習する範囲の中で出てきた言葉を辞書で調べること、語彙を増やす。</p> <p>○目標や目当てを明確にし、児童が主体的に学びに向かうことができるようにする。</p> <p>○算数科では、友達と学び合うことで、説明する力と協働的に問題を解く力を身に付けるようにする。</p> <p>○CD層の児童は何度も問題を解くことを繰り返し、解き方の習熟を図る。</p>		<p>○漢字の学習や、新しく学習する範囲の際に、辞書を使って自分の分からない言葉を調べたり、友達と教え合ったりして、語彙を増やしていった。</p> <p>○児童が学びに向かうことができるよう、目標や目当てを明確にした。</p> <p>○算数では教え合い、学び合いの時間を意図的に作り、児童同士で説明させたり、児童の考えを予想したりした。</p> <p>○CD層の児童は解き方が分かった後は、何度も習熟の問題を設定し、解き方に慣れ親しむようにした。</p>	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数では、週1回の放課後補習や朝学習で算数の既習事項を繰り返し指導することで、考え方が定着した。 ○国語では、若手教員の授業観察を適宜したり、学年会で授業の進め方を確認したりすることで授業改善ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数ではCD層の割合が68.4%と半数以上で、多くの領域の問題を解くことに課題がある。 ○国語ではCD層の割合が67.5%と半数以上で、漢字の読みが分からず、文章の意味を理解できない。 		<p>○江戸川区学力調査の算数科AB層の割合(R7:31.6%)を1割以上増やし、40%以上にする。</p> <p>○江戸川区学力調査の国語科のAB層の割合(R7:32.5%)を1割以上増やし、40%以上にする。</p>		<p>○宿題の徹底、学習習慣の定着。</p> <p>○補習などへの保護者の協力を依頼、地域人材の活用を検討。</p> <p>○校内九九検定や、校内漢字検定の合格に向けた指導による基礎基本の定着。既習事項の学び直し。</p> <p>○国語科の学習やよむYOMUワークシートを中心に、語彙の意味調べをする習慣を付ける。</p> <p>○東京BDの活用や、区の学力テストでの弱点領域に焦点化し、3回以上は同じ単元を繰り返し指導する。</p>	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語、算数ともにスタンダードを基にした授業を展開し、基礎・基本の定着を図った。江戸川区学力調査では、A層の割合を7%増やすことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○C・D層の割合が多く国語は70%、算数は60%いる。問題を読み聞かれている内容を理解できないことが原因であると予想されるため、基礎・基本の更なる定着を図り、語彙を増やす必要がある。 		<p>○国語科では、授業や家庭学習をおして語彙を増やす。</p> <p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施し、既習事項を生かして問題が解決できるようにする。</p> <p>○対話的な学習を行うことで、表現する力を身に付ける。</p>		<p>○辞書や辞典を正しく使用し、日常的に活用できるようにする。</p> <p>○読書の時間を増やしたり、よむYOMUワークシートを活用したりすることで、語彙を増やし、読む力を高める。</p> <p>○算数の授業内で、問題演習の時間を15分以上は設ける。</p> <p>○放課後学習教室や休み時間をおして、C・D層の個別指導を行い、基礎・基本の定着を図る。</p>	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4月に行った全国学力・学習状況調査では、AB層が減りCD層が増えたが、12月に行った区の学力テストでは、国語、算数ともに、AB層が増え、CD層が減った。指導の成果が出ている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語は、書くこと、読むことの正答率が低く、長文を読むことに慣れていない児童が多い。 ○算数においても、問題を読み、聞かれていることを理解して、式を立てることがが手で苦手である。 		<p>○宿題の提出率をあげて、学習に向かう態度の定着を図る。</p> <p>○音読を目的に行うことで、発表することへの抵抗をなくす。</p> <p>○国語科の学習を中心に、語彙を増やし、話す・書く活動に生かす。</p> <p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開をする。CD層は基礎的な計算の定着を図る。</p>		<p>○読書やよむYOMUワークシートを活用して、語彙力、読む力を養う。また、わからない言葉は国語辞典やタブレットを使って調べ、短文づくりなどを行って定着を図る。</p> <p>○国語だけでなく、委員会のカードやキャリアパスポートなど、気持ちや考えを様々な言葉を使って丁寧に書いたり、話したりする活動を日常的に取り入れ、丁寧に指導する。</p> <p>○算数は、CD層は基礎的な計算を繰り返し行う。AB層は、回や式を用いて考えを説明する活動を積極的に取り入れる。</p>	